



発行所  
日刊自動車新聞社  
東京都港区芝大門1丁目10番11号  
購読料 1カ月5343円+税  
電話 東京(03)5777-2351代表  
©日刊自動車新聞社2019

2月13日  
(水曜日)

## 関西の底力 自動車関連 ものづくり企業巡り



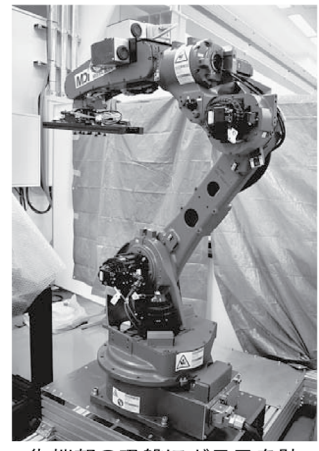
ツール事業部長  
西島浩一

職人のガラス加工技術を加  
工設備に落とし込み、高性能  
もなく実現することが強み  
な設備を製造する三星ダイヤ  
モンド工業(谷端義哲社長、  
大阪府摂津市)。複雑な形状  
のガラスを加工できる強みを  
生かし、自動車向けにも設備  
開発を進めている。

# 匠の技生かす高度なガラス加工技術

ガラスカッターの製造・  
販売会社として1935年  
に創立。刃物を削る技術は  
事業部長が「創業時には自動  
車のサイドミラーを加工する  
面取りホイールを製造・販売

### 25 三星ダイヤモンド工業



先端部の吸盤にガラスを貼り付けてレーザー加工する

「自動車のガラスの加工方法  
や用途などの変化にも対応  
していきたく(西島部長)」  
という思いもあり、新規事  
業として自動車にターゲット  
を絞った設備の製造を始め  
た。他社が実現できない技術  
を、同社は特殊な周波のレー  
ザーを用いることで一つのレ  
ーザーで完結する。設備コス  
トの削減や生産性向上など、  
メリットが多い。  
自動車用のディスプレイや  
ガラスに対応するために、他  
社と協力してロボットを活用  
した加工設備も開発した。  
自動車用ガラスは表面が  
曲がっていることが多く、  
設備の上に置くことが不安定  
加工が難しい。問題解決に  
向け、ロボットの先端に設置  
した吸盤にガラスを貼り付  
けた状態でアームを動かして  
レーザー加工する方法を生み  
出した。同社は光学設計を  
生み出した。同社は光学設計  
を担当し、的確にレーザー

## 自動車向け設備開発も

**注目ポイント**

**世界初の製品次々と**

ガラスを知り尽くした三星ダイヤモンド工業だからこそ世界初の製品を開発できた。「ガラスの光沢感や手触りなどを他の素材では再現できない(西島部長)」という。ガラスにしか再現できない高級感に着目し、自動車向けの採用も広がると予想する。同社の設備が活躍する場も一層拡大するだろう。  
(藤原 隼里)

を当てる構造を実現している。高度なガラス加工を開発する。  
現在、レーザー加工設備と自動車向け製品の売上比率は、ともに1割程度。今後は「レーザー加工機を30%、自動車向け製品を20%に引き上げる(西島部長)」方針だ。  
レーザー加工設備の比率を高めつつ、既存のガラスカッターを用いた設備の製造も進める。二つの事業の柱を軸

〈会社プロフィール〉  
▽所在地 大阪府摂津市香露園32-12(本社) 長野県茅野市玉川11400-127  
6(茅科工場) 長野県飯田市三日市場1840-1(飯田工場) 代表 谷端義哲社長  
▽創業 1935年 従業員 353人(単体) 2017 2164815211

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。